

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ホントウアカヒゲ

Larvivora namiyei (Stejneger, 1887)

関伸一（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



環境省 編

令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：関伸一，2026. ホントウアカヒゲ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物， pp. 626-630.

Citation: Seki, S., 2026. *Larvivora namiyei* (Stejneger, 1887). In: Ministry of the Environment, Japan (ed.),
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan, pp. 626-630.

ホントウアカヒゲ

Larvivora namiyei (Stejneger, 1887)

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

D2

基準 A: —	基準 B: —	基準 C: —	基準 D: VU	基準 E: —
---------	---------	---------	----------	---------

D2. 生息地面積あるいは分布地点が極めて限定されている。

【判断理由】

本種は沖縄島北部の森林のみに生息する (Seki 2023)。2000 年代には外来捕食者の分布拡大にともない本種の分布域の縮小と生息環境悪化が進んでいたが、フィリマングースの駆除が行われた地域では分布が回復しつつある (Yagihashi et al. 2021)。ノイヌとノネコの本種に対する影響については十分には把握されていない。個体数の変化については調べられていない。

評価分科会： 鳥類分科会

概要

沖縄島北部の森林にのみ生息する。2000 年代には外来捕食者のフィリマングースの分布拡大にともない本種の分布域の縮小と生息環境悪化が進んでいた。フィリマングースの駆除が行われた地域では本種の分布が回復しつつあるが (Yagihashi et al. 2021)、個体数の変化については調べられていない。

基礎情報

【形態】

ヒタキ科の小鳥で、大きさはスズメ大。背面は橙褐色、腹部は灰色で、オスでは顔から胸にかけて黒い。本種は、近縁種アカヒゲ *Larvivora komadori* にくらべて背面・腹面とも暗色で、オスでは嘴上部の黒色部の幅が細めである点が異なる。また、翼端の形状がアカヒゲに比べて丸みを帯びている。体重はオス 26.0 ± 1.4 g、メス 26.0 ± 1.4 g、自然翼長は オス 70.2 ± 2.4 mm、メス 67.2 ± 1.8 mm（オス N=38 メス N=22 の平均 $\pm$ SD；関伸一 未発表）。

【生活史】

樹洞、ヘゴなどの枯れ木、木の根元や倒木の陰などに、枯れ葉を用いて碗型の巣を作る。巣箱や人家など人工構造物にも営巣する。一腹卵数は2-4卵が多い（宮城・樋口 1990）。周年同じ場所に生息する個体がいる一方で、生息密度の季節変化からは繁殖期・非繁殖期で地域内移動をする個体もいると推測される。

【生息環境】

常緑広葉樹林で、シダなどの下層植生の茂った場所や谷地形の場所に多い。二次林にも生息する。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林 【陸域_平地部】森林，農業用水路，小河川
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域，(7) 島嶼地域

【分布域】

沖縄島北部の森林にのみ生息する。確実に本種と同定される個体が沖縄島以外で記録されたことはなく、留鳥と考えられる。沖縄島の南西に位置する慶良間諸島でもアカヒゲ種群の記録が2例あるが種不明であり（与那城 1978）、本種と推測できる根拠はない。

現在の生息状況

【分布域の現況】

沖縄島のみに生息する。

【生息地の現況】

外来捕食者のフィリマングースの分布拡大にともなって、本種の主な分布域である沖縄島北部地域の森林で繁殖分布域が縮小傾向にあった（沖縄県文化環境部自然保護課 2003、小高ら 2009）。その後、フィリマングースの駆除が行われ本種の分布が回復している地域もある（Yagihashi et al. 2021）。ノイヌとノネコの本種に対する影響については十分には把握されていない。

【個体数の現況】

沖縄島北部地域の一部では高密度に生息しているが、その他の地域の生息密度は高くない。1980年には、さえずり個体密度と生息地面積から個体数推定が試みられ、沖縄島北部で約25,900-36,000羽、中部で約2,000-3,450羽と報告されているが、過大評価であった可

能性も指摘されている（環境庁 1981）。その後の個体数の変化については調べられていない。

存続を脅かす要因

本種の現在の生息地は沖縄島北部の常緑広葉樹林に限定される。その唯一の生息地で外来捕食者のフィリマンゲース、ノネコ、ノイヌが確認されており、フィリマンゲース及びノネコまたはノイヌの消化管内容物や糞から本種が検出されている（日本野鳥の会やんばる支部 1997、小高ら 2009）。その結果、2000 年代には主にフィリマンゲースの分布拡大にともなって本種の繁殖分布が縮小する傾向にあった（沖縄県文化環境部自然保護課 2003、小高ほか 2009、Yagihashi et al. 2021）。現在ではフィリマンゲースの駆除が行われた地域で本種の確認頻度が回復しつつあるが（Yagihashi et al. 2021）、個体数の変化については十分な情報がない。分布域における常緑広葉樹林の伐採や開発の拡大は、生息地面積の減少につながる可能性がある。古来より飼い鳥として捕獲されてきたが、現在でも違法飼育の影響があるのかは不明である。

要因の区分：	（過去）	捕食（外来種による），分布・産地局限
	（現在）	捕食（外来種による），分布・産地局限

特記事項

本種とアカヒゲとは分布域の近接した姉妹種ではあるが遺伝的分化の程度が大きく（Seki et al. 2007, Seki 2023）、日本鳥類目録改訂第 8 版においてはそれぞれ独立種とされ、本種の学名は *Larvivora namiyei* に変更された（日本鳥学会 2024）。今回のカテゴリー変更は本種の現状の変化というよりは、種分類の変更と評価方法の変更（評価基準の整理と定性評価の廃止）によるところが大きい。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第 4 次 2020:	ホントウアカヒゲ	<i>Luscinia komadori namiyei</i>	EN
第 4 次 2019:	ホントウアカヒゲ	<i>Luscinia komadori namiyei</i>	EN
第 4 次 2018:	ホントウアカヒゲ	<i>Luscinia komadori namiyei</i>	EN
第 4 次 2017:	ホントウアカヒゲ	<i>Luscinia komadori namiyei</i>	EN
第 4 次 2015:	ホントウアカヒゲ	<i>Erithacus komadori namiyei</i>	EN
第 4 次:	ホントウアカヒゲ	<i>Erithacus komadori namiyei</i>	EN
第 3 次:	ホントウアカヒゲ	<i>Erithacus komadori namiyei</i>	EN
第 2 次:	ホントウアカヒゲ	<i>Erithacus komadori namiyei</i>	VU
第 1 次:	ホントウアカヒゲ	<i>Erithacus komadori namiyei</i>	V

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【沖縄県】絶滅危惧 I B 類(EN)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

国内希少野生動植物種，鳥獣保護管理法

参考文献

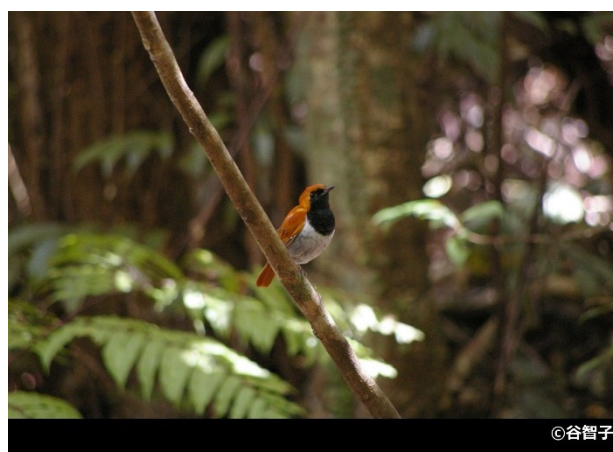
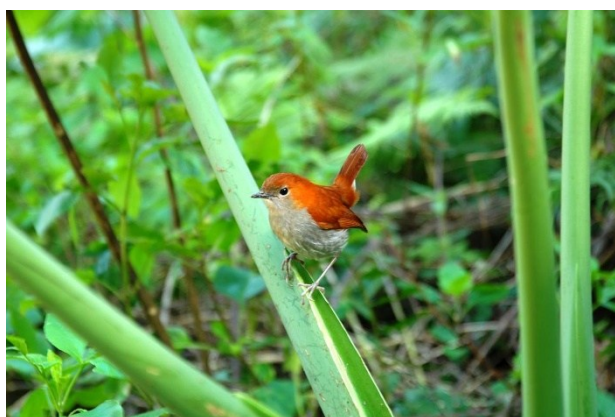
- 環境庁，1981. 昭和 55 年度特殊鳥類調査報告書. 環境庁，東京. 131pp.
- 小高信彦・久高将和・嵩原建二・佐藤大樹，2009. 沖縄島北部やんばる地域における森林性動物の地上利用パターンとジャワマングース *Herpestes javanicus* の侵入に対する脆弱性について. 日本鳥学会誌，58: 28-45.
- 宮城邦治・樋口広芳，1990. 沖縄県北部地域におけるアカヒゲの繁殖生態. 平成元年度特殊鳥類調査，pp. 1-23. 環境庁，東京.
- 日本鳥学会，2024. 日本鳥類目録第改訂第 8 版. 日本鳥学会，東京.
- 日本野鳥の会やんばる支部，1997. 沖縄島北部における貴重動物と移入動物の生息状況及び移入動物による貴重動物への影響報告書. 日本野鳥の会やんばる支部，国頭村. 86pp.
- 沖縄県文化環境部自然保護課，2003. 平成 14 年度特殊鳥類等生息環境調査（ホントウアカヒゲ生息実態調査）報告書. 沖縄県文化環境部自然保護課，12pp.
- Seki, S. I., M. Sakanashi, N. Kawaji and N. Kotaka, 2007. Phylogeography of the Ryukyu Robin (*Erithacus komadori*): population subdivision in land-bridge islands in relation to the shift in migratory habit. Mol. Ecol., 16: 101-113.
- Seki, S. I., 2023. Fine-scale nuclear genetic structuring within the Ryukyu Robin, a species complex endemic to the Ryukyu Archipelago. Ornithological Science 22: 137-150.
- Yagihashi, T., S. I. Seki, T. Nakaya, K. Nakata and N. Kotaka, 2021. Eradication of the mongoose is crucial for the conservation of three endemic bird species in Yambaru, Okinawa Island, Japan. Biological Invasions 23: 2249-2260.
- 与那城義春，1978. 阿嘉，慶留間，屋嘉比島の鳥類. ケラマジカ実態調査報告 III，pp. 151-156. 沖縄県教育委員会，那覇.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Larvivora namiyei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Larvivora namiyei* is listed as VU under criteria D2.

D2. Population with a very restricted area of occupancy (typically less than 20 km²) or number of

locations (typically five or fewer) such that it is prone to the effects of human activities or stochastic events within a very short time period in an uncertain future, and is thus capable of becoming Critically Endangered or even Extinct in a very short time period.	
Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】 Forest 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Forest, Agricultural ditch, Small river
Threat types:	Predation (by alien species), Limited distribution
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora. Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.



執筆者:	関伸一（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）
Author:	Shin-ichi Seki

公表年月：2026 年 3 月